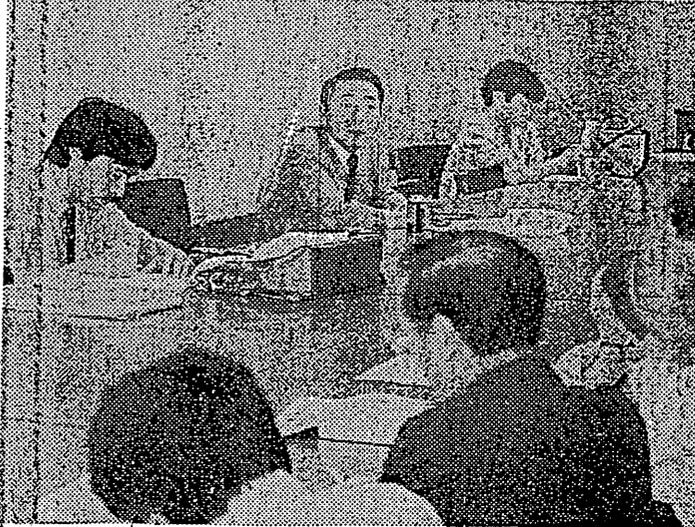


見る

聞く

言う

インドネシアのスマタラ地区
中部で日本の政府開発援助
(ODA)によるダム建設の
計画が進められているが、ダ
ム建設は地域の火災などの人権
侵害や環境破壊などとして
、現地住民が八月に来日し
、日本政府などに援助の中止を
、直訴した。



コタパンジャン・ダム建設への援助中止を訴える
見教授 (中央) と諏訪勝氏 (左) — 参院議員会館で

スマタラ家が危ない!

現地住民2人が ODAで直訴へ

2万2千人立ち退き
問題のタラハ、コタパン
ジャン、タラハ、スマタラ中部
のスマタラ、カナン川に建設
が構想されている。インドネ
シア政府の計画では一九八七
年着工だったが、資金面など
から延期になっていた。しか
し、日本政府が九〇年度の対
インドネシアの田舎の一環と
して百二十五億円の供与を決
定し、九二年に建設費の七十
五億千五百万円の追加融資
を行ったことでも、あわただし
に本格化した。
ところが、貯水池は大きな
の威嚇をうけて、(住民タ
ラハ)と、
これに対して、外務省は
「住民の立ち退きや自由意思
で建設を進める」と、ODA研
究会「地球の友」が千葉県
船橋市と横濱市でそれぞれ開
催する「日本の援助を考
える」シンポジウムで特別参
加、住民にも援助の中止を
せよとの計画だ。

「住民の怒り高まる」
見教授は、昨年八月に私
は現地を訪れたが、住民たち
はダムが建設されることは知
っていたが、それが日本の援
助で進められることは一人
として知りなかった。しか
し、問題が明らかになり、日
本の援助に対する住民の怒り
は高まっている」と、同
問題が深刻になっていること
を強調する。
その上で、「日本国民にも
インドネシアの現地の人にも
説明の出来ないODAとは何
なのか。せめて現地の人の声
を聞いて、ODAの在り方を考
え直してほしい」と訴えてい
る。

住民が立ち退かなくてはなら
ないほか、数少ないスマタラ
家の保護や歴史的貴重なム
アラ・タクスム教遺跡の保全
が問題となっている。
この中で市民グループが問
うら民名や住所などは公表され
ない。また、建設中の村の
男性と近づく住む女性の計三
人。環境問題の市民グループ
などの招きによるが、インド
ネシア政府などに帰国後に弾
圧される可能性があることが
、この中で市民グループが問
うら民名や住所などは公表され

91
9.3
東京